

第二 問

次の文章は、便乗納言『デカ枕草子』第八一〇段「はぢざらしな聡更級日記」の一節である。これを読んで、後の設問に答えよ。

今は昔、あてなりてめやすき若人二人ありけり。名をば、田所、遠野となむいひける。田所は遠野が先達なり給ひければ、遠野年ごろよくよく従ひけるとぞ。いづれも水練の上手にて帝ゆかしくさせ給へば、「かしこきことかな。いかでか不覺せず奏覽せむ」とて、夏つごもりに、遠野、田所が家にぞ徒歩にて行きてうち話さむとしける。

田所、(ア) 我家指して「こ」となむ言ひ尋承し給ひけるに、いみじうはづかしきに遠野めでたう覚えて、「(イ)いと大きなり」とひとりごちければ、「悔い改むべし」となむのたまひけれ。

上がりて、やがて椅子あれば居り、田所「(ウ) 朝夕におこなひける、いみじう憂きことなり。まづ我家に覺が上ありければ、焼かむか」となむのたまひけるに、遠野「(エ) げに。いみじう良きこと」とぞいらへける。さて覺が上にて衣脱ぎて添ひ臥し「油塗らむか」とのたまひて遠野に油塗ら給ひて後、遠野にぞ塗らせ給ひける。田所何を思ゆらむか、(オ) いみじうはづかしき物やうやうあらはになり給ひければ、(カ) すさまじとうち笑ひけるが、やがてあらはになりけり。やや二人黒々となむなりければ、「焼けつらむか」とてうち見やり給ひて、「(キ) あはれなるほどに白くなりけり、あからさまなりて、なまめかし」とぞ飽き給ひける。

〔注〕 ○油——オイル。

設問

(一) 傍線部ア・イ・エ・オ・キを正確に現代語訳せよ。

(二) 「朝夕におこなひける、いみじう憂きことなり。まづ我家に薨が上ありければ、焼かむか」(傍線部ウ)とあるが、田所が「まづ」という言葉を含め発言したのはなぜか。人物の関係にも触れながら説明せよ。

(三) 「すさまじとうち笑ひける」(傍線部カ)とあるが、誰がなぜ「すさまじとうち笑」ったのか説明せよ。

昔、高貴で感じの良い若者が二人いた。名前は、田所、遠野という。田所は遠野の先輩でいらつしやつたので、遠野は長年よく付き従っていたという。二人とも水泳の名手で、帝がその姿をせひ見たいと思ひなかつたので、「畏れ多いことだ。どのようにして、失敗せず（水泳する姿を）ご覧に入れたものか」と、夏の終わりに、遠野は田所の家へ徒歩で行き、相談しようとした。

田所が自分の家を指して「ここ」とおっしゃり案内なされたところ、そのたいそう立派な家に、遠野はすばらしいと思つて「はえ、すごいおつきい……」と独り言を言つたので、田所は「悔い改めて」とおっしゃつた。

部屋に上がつて、すぐに椅子があつたので座り、田所が「今日練習きつかつたね。まづうちさあ、屋上あんだけど、焼いてかない？」とおっしゃつたので、遠野は「ああ、いいすねえ」と答えた。屋上で服を脱いで添い寝し、「オイル塗ろつか？」と（田所が）おっしゃつて遠野にオイルを塗りなされた後、遠野に（田所の体に）オイルを塗らせなされた。田所は何をお思ひになつていたのだろうか、たいそう立派な物がだんだんと丸見えになりなされたので、（遠野は）興ざめであると思つて笑つていたが、すぐに（遠野のものも）丸見えになつた。やがて二人とも黒々となつてきたので、（田所が）「焼けたかな」と少しご覧になつて、「すごい白くなつてる、ハッキリわかんかね。この辺がセクシー、エロいっ！」と満足なされた。